

# 心電図で見えぬ変化捕捉

## 「心磁計」簡単・安価に

心電図では分からない不整脈などの心機能の変化を、心臓に起こるわずかな磁場の変化で調べる新型の「心磁計」を、東北学院工学部の藪上信准教授らが試作した。従来型と違って高価な液体ヘリウムで冷やす必要がないため、装置が簡単で価格も100分の1程度に抑えることができるという。

(斎藤義浩)

### 東北学院大准教授ら試作

この新しい磁気センサーは室温で使えるため冷却装置がいらず、実用化に成功すれば小さな医療機関でも購入できる安価な心磁計ができる見通し。いまのセンサーは1個だが、10個程度のセンサーをつなげた立体的な心磁計を作る計画だ。

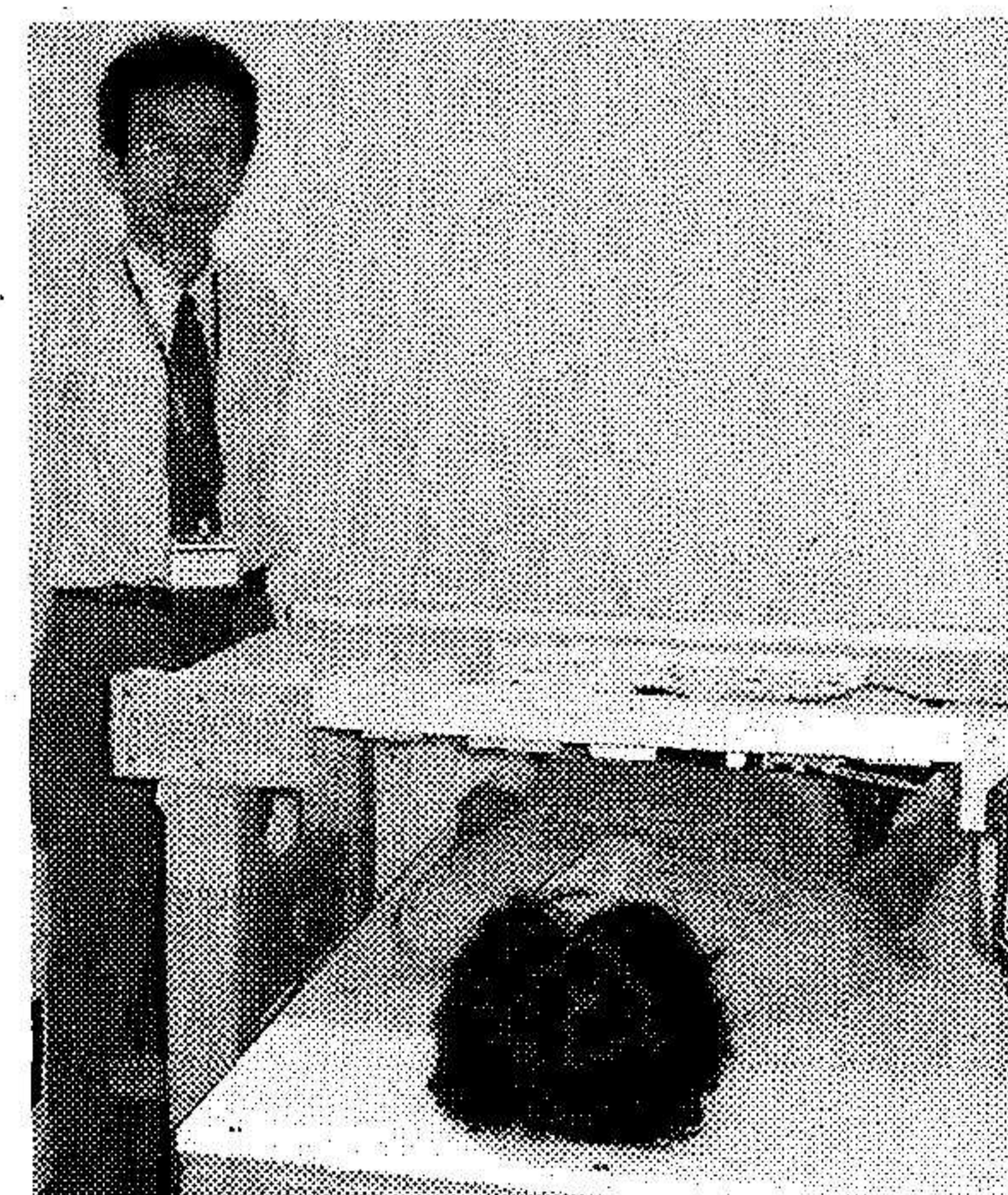
藪上さんは「新センサーは食品への金属混入や、原子力発電所の配管の傷の検査にも活用できる」と話す。3年以上に実用化にこぎつけたアイデアだ。

### 「食品の金属混入・原発の検査も」

心臓の拍動のリズムは、心筋を流れる電流が制御している。体に電極を張り付けてこの電流を調べるのが「心電計」。通常の健康診断で使われるのがこのタイプだ。

しかし、超伝導現象を発生させるためには液体ヘリウムや液体窒素で超低温に冷やした魔法瓶のような装置を使わなければならない。装置全体を構築するために数億円もかかるのが難点だった。

藪上さんは、コバルトと



室温で使える新型の「心磁計」。横になった人の胸にセンサーを近づけると、心拍にともなう微小な磁場の変化がわかる。多賀城市の東北学院大



### 街にミニSL 白石

白石市の中心街で28日、「レトロフェスタ」が開かれ、訪れた人たちはミニSLの試乗会などを楽しんだ。写真。

「歴史と伝統のまちとして特色を出していこう」と白石商工会議所などが主催。会場の「すまいるひろば」などでは昭和40年代の自動車などが展示され、ボンネットバスの試乗も人気を呼んでいた。



## 謝罪に安堵・不満

薬害肝炎訴訟 和解案基本合意

### 原告「真の誠意を」

薬害C型肝炎集団訴訟で、全国原告団と被告企業の「田辺三菱製薬」（大阪市）が28日、和解案を含む基本合意書を締結したことについて、東北の原告らが参加する仙台訴訟の関係者は安堵の表情を浮

けて同社と協議を継続する。大阪での集會に福島県から参加した仙台訴訟「原告番号1番」の女性(55)は「誠意のある明確な改善策がないまま終わってしまった」と唇をかみしめた。同社の被害者リスト隠しの問題などに触れ、

「企業は問題の認識を深め、製薬会社本来の『人の命を守る』という理念に立ち返ってほしい」と話す。協議に向けて「表向きな謝罪ではなく、被害の実態調査や原因究明を重ね、薬害のない環境を作ってほしい」と語った。

## 蔵王町長に村上氏

前議長 批判かわし再選

蔵王町長に村上氏 前議長 批判かわし再選

### 得票

英人 56 無現

稔 70 無新

＝確定得票